

株主のみなさまへ

第14期報告書

2011年4月1日～2012年3月31日

株式会社トランスジェニック 証券コード2342



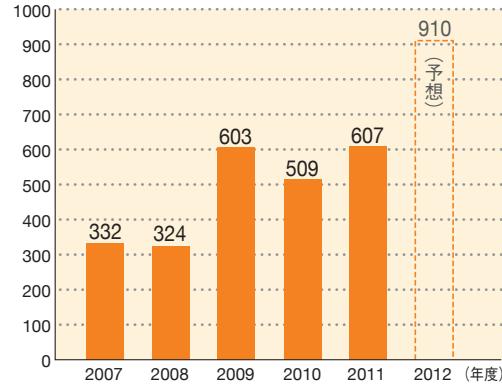
ひとり一人の健康と豊かな暮らしの実現をめざして

Highlights

連結決算ハイライト

Highlights

▼売上高(単位:百万円)



▼経常損益(単位:百万円)



▼当期純損益(単位:百万円)



■概況

当社は、平成24年3月期において、前期に引き続き更なる収益基盤の確立を目指した業務の効率化およびコスト削減を行いました。その結果、当連結会計年度における当社グループの業績は、売上高607百万円(前年同期509百万円)で増加となりました。損益については、営業損失127百万円(前年同期133百万円)、経常損失120百万円(前年同期144百万円)、当期純損失156百万円(前年同期215百万円)となりました。

セグメント別業績状況は、遺伝子破壊マウス事業においては、マウス作製受託が堅調に推移し、また非臨床試験受託を開始したことにより売上高400百万円(前年同期306百万円)で増加となりました。しかしながら、マウス事業の一環として開始した非臨床試験受託サービスの立ち上げに係る各種初期投資負担が計画を上回った結果、営業利益49百万円(前年同期54百万円)と減益となりました。抗体事業においては、東日本大震災による公的研究費支給の不透明感から、抗体製品販売、抗体作製受託ともに受注が当初計画を下回りましたが、売上高84百万円(前年同期77百万円)の増収となりました。なお、抗体製品製造を一部外部へ委託したことから、コスト増となり営業損失10百万円(前年同期営業利益6百万円)と減益となりました。試薬販売事業においても、サイトカイン販売が伸び悩んだことにより売上高123百万円(前年同期124百万円)となったものの、前期においてのれん償却負担減少により営業利益29百万円(前年同期22百万円)と増益となりました。

Top Message

ご挨拶

Top Message

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。さて、第14期の事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社は生命資源の開発を通じて社会に貢献する企業を目指しております。この目標を達成するために、当事業年度においても、遺伝子破壊マウス事業におきましては開発体制の拡充、シナジー事業の拡大、抗体事業におきましては当社が保有する知的財産の事業化を推進すると同時に、当社にとって有益な各研究機関・企業との様々な提携強化を図っております。

当社はこれらの重点施策に全社員一丸となって取り組み、社会的貢献度の高い企業へ成長し続けることで、企業価値のさらなる向上を実現させる所存です。

株主のみなさまにおかれましては、当社の取り組みに何卒ご理解をいただき、なお、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2012年6月 代表取締役社長
福永 健司



Profile 略歴

1969年 8月 13日生まれ
1993年10月 有限責任監査法人トーマツ入所
2003年 5月 トーマツ・ベンチャーサポート株式会社取締役
2009年 6月 株式会社トランスジェニック取締役
2010年 6月 株式会社トランスジェニック代表取締役社長 現任

Contents 目次

連結決算ハイライト	1	事業のご紹介	5	会社概要	11
ご挨拶	2	研究開発のご紹介	7	株式の状況	11
トップインタビュー	3	知的財産戦略	8	株主メモ	11
		連結財務諸表	10	IRからのお知らせ	11

Q1 平成24年3月期業績総括についてお聞かせください。

当事業年度の連結売上高は607百万円となり、前年比19%増の増収となりました。これは、当事業年度から開始した非臨床受託試験事業が順調に進捗したことが大きな要因ですが、一方では、東日本大震災の影響により公的研究予算執行の大幅遅延や、先行き不透明感が重なり、抗体事業及び試薬販売事業が当初計画と比較しますと大幅未達となりました。これらの結果、新規事業開始に伴う各種経費増等を吸収できず結果的には、当年度の大きな目標であった黒字化を達成することが出来ず厳しい年度であったと考えています。

しかしながら、厳しい事業年度であったが故に、当社の課題・取り組むべき方向性が明確になりました。このため、一事業年度の業績としては現れていませんが、新年度、将来に向けた社内体制構築・環境整備を前倒しで実現することができました。私は、当事業年度は、当社の今後の業績をうかがう上で節目の年度であったと捉えています。

Q2 このたび遺伝子解析事業の譲受けを実施しましたが、目的と今後の展開についてお聞かせください。

遺伝子解析事業は当社が属する基礎研究・創薬支援分野の中において重要な役割を果たす事業です。特に、当該事業と遺伝子破壊マウス事業との顧客は一部重複しており、効率的な営業・受託獲得が可能となるほか、それ以外の顧客についても、それぞれの顧客を切り口として新たなサービスが可能となるなど、事業シナジーが期待できるものと判断できたことから、事業譲受を意思決定しました。

当該事業は、本年6月に神戸研究所に移転を終了し、遺伝子破壊マウス事業に統合してサービスを展開する方針です。この1年は譲り受けた事業基盤を着実に当社に取り込むと同時に、事業シナジーを実現することに専念する方針です。なお、次世代シーケンサー事業に関しては国内外他社との連携・提携等を通じたサービス内容・価格の拡充・改善等を図り、積極的な事業展開に取り組むと考えています。

Q3 最後に、株主様へのメッセージをお願いいたします。

当年度は最終損益黒字化の未達や下方修正を余儀なくされるなど株主の皆様に対して改めてお詫び申し上げます。

新年度は、神戸研究所新実験施設が6月以降本格稼働を開始します。新実験施設はマウス事業における能力増強のみならず集約化に伴う更なる効率化を実現するとともに、高付加価値の非臨床受託試験施設としての機能も具備しており、当社が提供するサービスのボリューム及びレベルを飛躍的に高めることが可能となります。また、新年度より新たに高付加価値サービスとして遺伝子解析事業も加わることとなります。

黒字化体質に向けた既存事業の拡充及び過去に投資を行った開発パイプライン成果の収益化を目的とした国内・海外への展開は着実に前進しており、新年度はこれらの効果が具現化してくるものと考えています。

当社は生命資源の開発を通じて社会に貢献する企業として、また、研究開発型ベンチャーとして、これからも、企業価値の向上に向けて果敢に挑戦し続けます。



事業のご紹介

■ 事業紹介

当社は、創薬研究に高い技術力、付加価値の高いサービスを幅広く提供することによって、創薬、病態の解明に貢献しております。

マウス事業



当社の独自技術である遺伝子トラップマウス作製技術により作製した遺伝子破壊マウス750系統および遺伝子破壊ES細胞2,000系統の情報を保有し、当社ホームページ上の『TG Resource Bank[®]』および国立遺伝学研究所のデータベースとして公開し、系統ごとに使用権を供与しています。また、研究者が標的とする遺伝子を破壊したマウスの作製受託や病態モデルマウスの提供も収益の基盤となっています。

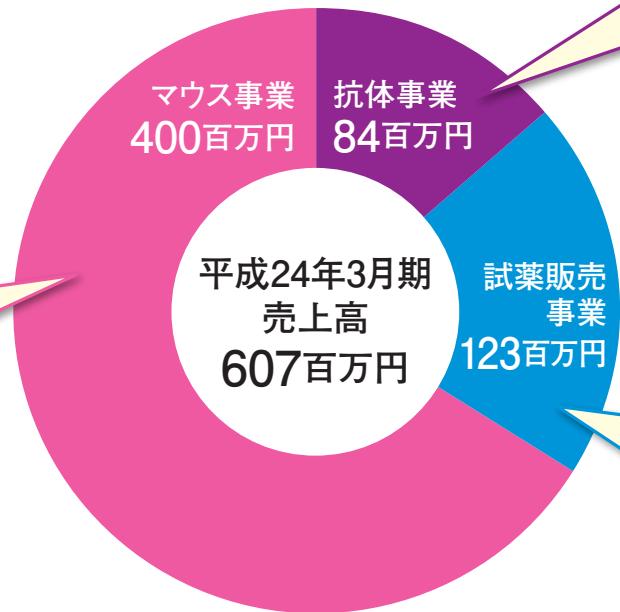
また、創業支援の一環として、非臨床試験受託および遺伝子解析受託を開始いたしました。

【主な製品・サービス】

- TG Resource Bank[®]
- 遺伝子破壊マウス作製受託 ● 非臨床試験受託 (薬効薬理試験、安全性薬理試験、薬物動態試験)
- 遺伝子解析 (DNAマイクロアレイ解析、次世代シーケンス解析)
- 病態モデルマウス販売



▼ 売上高構成



抗体事業



当社のGANP[®]マウス技術を用いてがんや糖尿病といった市場性が期待される抗体を作製し提供しています。また、研究者からの抗体作製受託も行ってまいります。さらに、抗体作製技術を発展させ、各研究機関から得られたバイオマーカー候補分子情報に基づき開発した抗体について、診断薬を目指して研究開発に取り組んでいます。尿中腫瘍マーカー、膵がんマーカーに引き続き、メタボリックシンドローム関連バイオマーカー等各種バイオマーカーの拡充につとめています。

【主な製品・サービス】

- GANP[®] 高親和性抗体作製 ● 自社開発抗体製品の販売
- タンパク質高発現細胞作製



試薬販売事業



ライフサイエンス研究支援のための、研究用試薬販売(輸入抗体製品、サイトカイン)および情報提供を展開しています。現在、取り扱っているProteinTech社の抗体は7,000製品、組み換えタンパク質など4,200製品以上です。今後も、サイトカインを含めた研究用試薬の拡充につとめ、ライフサイエンスの支援をしてまいります。

【主な製品・サービス】

- 研究用抗体製品の輸入販売 ● がん免疫細胞療法研究用サイトカインの販売



Technology テクノロジー

可変型遺伝子トラップ法

熊本大学生命資源研究・支援センター 教授 山村研一(当社取締役)らにより発明された、遺伝子改変マウスの効率的な作製方法であり、トラップベクターによりマウスES細胞に発現する遺伝子をランダムに完全破壊する方法です。従来のトラップ法に比べて、遺伝子の完全破壊が行えること、破壊した遺伝子の位置にヒト遺伝子や突然変異などを挿入可能であることが特徴であり、ヒト疾患モデル動物の開発や詳細な遺伝子機能解析に有用な手法です。当社は、本技術を基軸とした遺伝子破壊マウス作製技術を基幹事業としています。

ヒト化マウス

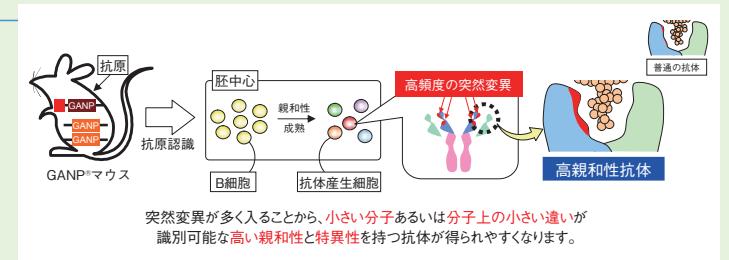
ヒト化マウスとは、便宜的に遺伝子レベルでのヒト化マウス、細胞レベルでのヒト化マウス、組織・臓器レベルでのヒト化マウスの3種類があります。遺伝子レベルでのヒト化マウスは、トランスジェニック社が持つ可変型遺伝子トラップ法または可変型相同組換え法によりすでに作製可能です。細胞レベルでのヒト化マウスの例としては、ヒト白血球を持つマウス、ヒト抗体を産生するマウスがあげられます。当社は熊本大学とヒト化マウス開発に関する

共同研究をすすめております。本共同研究で目指すのは、組織・臓器レベルでのヒト化マウスでマウスの生体内で正常にヒト組織や臓器を再構築し、持続的に機能をさせ、ヒトの細胞や組織が拒絶されることがなく体内に存在するマウスです。例えば、ヒト肝臓持つマウスなどがあります。このようなヒト化マウスを用いることにより、非臨床試験(新薬の安全性テスト)や創薬研究がよりヒトの状態を反映したモデルで進めることが可能となります。

GANP[®]マウス技術

GANP (Germinal Center Associated Nuclear Protein)とは、熊本大学 阪口薫雄教授らにより発見された遺伝子で、抗体を産生するB細胞で発現しています。GANP[®]マウス技術とは、このGANP遺伝子を過剰に発現させたGANP[®]マウスを用いて抗体

を作製する技術です。GANP[®]マウスで得られる抗体は、親和性や特異性の高いことが特徴で、診断薬や抗体医薬の開発への展開が可能です。当社は、本技術による抗体の自社製品開発、および本技術のライセンス供与を行い、抗体事業収益の柱としております。

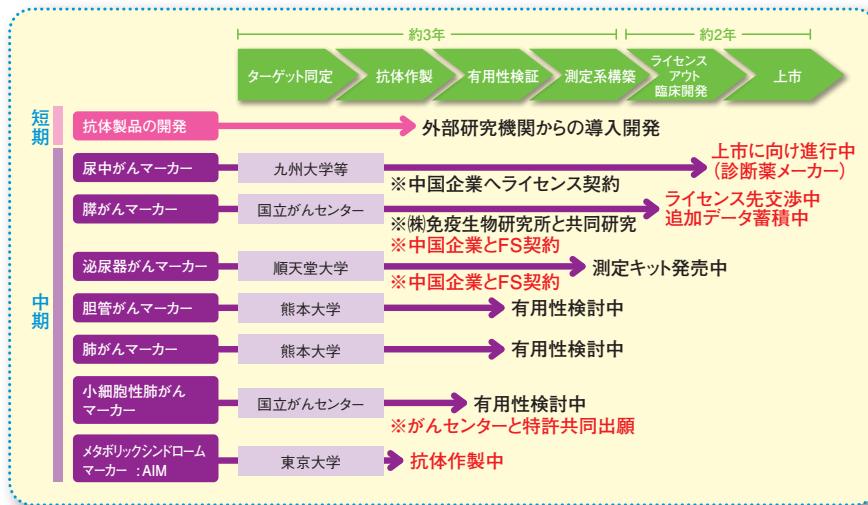


研究開発基本方針

研究開発テーマについては、収益基盤の早期確立を目指すため、選択と集中を基本に絞り込みを行って参りました。今後は選択と集中を進める中で、マウス事業における有用なモデルマウス開発および導入、さらに抗体事業におけるシーズ探索の拡充の一環として東京大学との共同研究開始等、有力研究機関との共同研究を通じて、将来的な収益化につながるプロジェクトに経営資源を投入します。

研究開発パイプラインの進捗状況

当社は、GANP[®]マウス技術を用いて作製した抗体を様々なバイオマーカーとして診断薬へ展開するよう研究開発を進めております。バイオマーカー開発パイプラインの充実を図ることで、抗体事業のブランド力を高めて参ります。



研究開発トピックス

2011年 4月	「GANP [®] マウス技術」に関する特許が米国にて成立 新規膵臓がんマーカーの診断応用に向けた共同研究に関するお知らせ	9月	新規肺がんマーカーに対する抗体ならびにその診断応用に関する特許出願について 「GANP [®] マウス技術」に関する特許が中国にて成立
6月	メタボリックシンドロームに関する共同研究契約締結に関するお知らせ アポトーシス抑制因子に関する共同研究について～共同リリース～	12月	Prolyl 4-Hydroxylated Human α-Fibrinogen 測定キットの発売のお知らせ 「GANP [®] マウス技術」に関する特許が香港にて成立
7月	新実験施設の起工式実施について	2012年 2月	新実験施設の竣工について 遺伝子解析事業の譲受け

知的財産戦略の方針

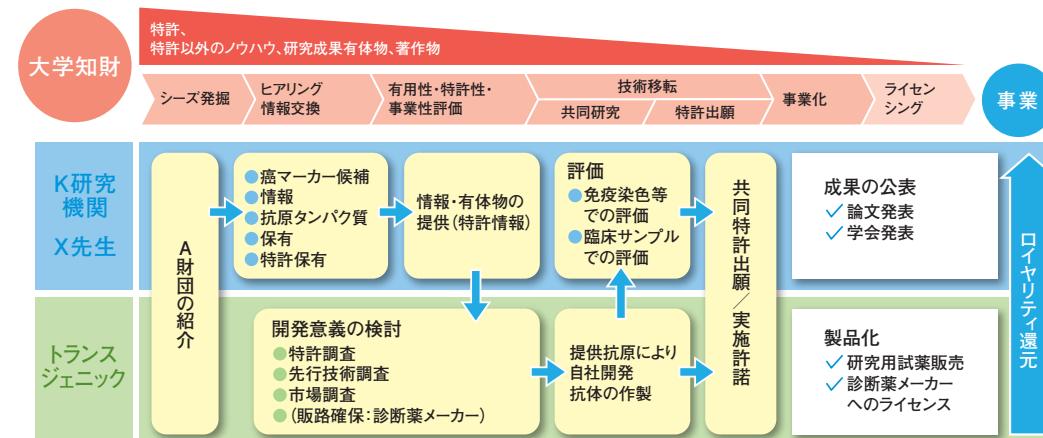
当社は、創薬ターゲットを探索している製薬企業や疾病の解明に取り組む研究者へ、有益な研究ツール、技術情報、知的財産を提供することにより、創薬、病態も解明に貢献したいと考えております。

また、当社は、大学・研究機関等との共同研究を積極的に行い、当社事業とシナジー効果が発揮でき得る技術を、研究開発の早期段階において導入することに努めております。研究開発の早期段階での技術導入により、その技術が公開される前に確実な知的財産権を確保するとともに、豊富な実験データに裏付けられた強い特許、将来のマーケティングを見据

えた特許網を構築すべく、研究開発、事業戦略と融合させた特許戦略を展開しております。さらに、導入した技術を付加価値の高い技術や知的財産に育て、これらの技術から生まれた独自性の強い製品・サービスを提供するとともに、知的財産、技術情報のライセンスビジネスを展開しております。知的財産のライセンスについては、製薬企業、診断薬メーカーなどの開発・事業のステージにあわせたマイルストーンを設定することにより、複数の事業ドメインを対象としたハブアンドスポークモデル型のライセンス契約とするなど、戦略的な知的財産の活用に向けております。

特許・ライセンスの事業への貢献

当社特許の事業への貢献度は高く、当社は保有特許の極めて高い実施率を保っております。また、積極的なライセンスイン、ライセンスアウトを通じて、直接的な収入の増加のみならず、事業の優位性を図り、将来を見据えた中長期的な知的財産戦略を実行しております。



■事業戦略、研究開発戦略、知的財産戦略の横断的な取り組み

当社は、ジェノミクス、CRO、抗体試薬の各事業部制組織と経営企画室を設けております。

ジェノミクス事業部は、マウス作製受託を中心に、CRO事業部は非臨床試験受託、また抗体試薬事業部は抗体作製受託とともに、新規腫瘍マーカーの開発や抗体製品販売を担っております。

経営企画室は、経営戦略に関わる事項および知的財産およびライセンスの管理を担っており、知的財産戦略の策定・実行から自社で創出された技術の権利化や活用、さらに他社の技術動向の調査や侵害の有無、技術提携や知的財産の戦略

的な導入等、知的財産に関する業務全般も担っております。また、社内での知的財産教育にも努めており、社内各部署への自社・他社の知的財産関連情報の発信、戦略的な知的財産の取得を目指した研究開発の指針などの提起を行っています。

当社のようなベンチャー企業にとっては、国内外の大学などの学術機関や製薬企業などとの連携が極めて重要となります。当社は、知的戦略部門を中心に、大学の知財部等から積極的に技術導入やライセンスを受けると同時に、製薬企業や委託企業などとの業務提携や技術提供を行い、当社事業の拡大・強化に努めています。

■リスク対応情報

2012年3月末時点において、当社に対する特許訴訟やクレームはありません。当社は、自社知的財産の管理・運営のみならず、他社知的財産の調査・監視を徹底しております。新たな研究開発を開始する前には、特許事務所等へ特許調査を依頼し、自社技術が他社の特許侵害に当たらぬよう、リスクマネジメントに努めております。

■主な特許成立マップ

トランスジェニック社の特許群は、トラップ技術関連、GANP[®]マウス技術関連、腫瘍マーカーなど、事業の根幹となっております。これらの知的財産をもとに、国内外の複数の企業とライセンス契約を積極的に進めてまいります。

●トラップ法関連特許	日本、米国、欧州、豪州、中国、香港
●尿中がんマーカー関連特許	日本、米国
●膜がんマーカー特許	日本
●GANP [®] タンパク質特許	日本、米国、カナダ
●GANP [®] マウス関連特許	日本、米国、欧州、豪州、中国、香港、韓国



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
(資産の部)		
流動資産	2,221,852	1,663,867
固定資産	387,117	838,514
資産合計	2,608,969	2,502,381
(負債の部)		
流動負債	137,598	184,321
固定負債	20,673	20,739
負債合計	158,271	205,060
(純資産の部)		
株主資本	2,437,018	2,280,874
資本金	5,404,211	5,404,263
資本剰余金	546,691	546,743
利益剰余金	△3,512,101	△3,668,350
自己株式	△1,782	△1,782
その他の包括利益累計額	1,440	3,601
新株予約権	8,348	8,312
少数株主持分	3,890	4,533
純資産合計	2,450,697	2,297,321
負債純資産合計	2,608,969	2,502,381

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△183,366	△200,553
投資活動によるキャッシュ・フロー	696,743	△394,103
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,075,952	68
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,589,328	△594,589
現金及び現金同等物の期首残高	446,357	1,993,125
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△42,560	—
現金及び現金同等物の期末残高	1,993,125	1,398,536

連結損益計算書及び連結包括利益計算書 (連結損益計算書)

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
売上高	509,100	607,985
売上原価	271,666	380,063
売上総利益	237,433	227,922
販売費及び一般管理費	370,595	355,573
営業損失(△)	△133,161	△127,650
営業外収益	4,927	8,159
営業外費用	16,053	898
経常損失(△)	△144,288	△120,390
特別利益	106,250	—
特別損失	169,052	29,900
税金等調整前当期純損失(△)	△207,091	△150,290
法人税、住民税及び事業税	3,369	5,997
法人税等調整額	4,689	△682
少数株主損益調整前当期純損失(△)	△215,150	△155,605
少数株主利益	323	642
当期純損失(△)	△215,474	△156,248

(連結包括利益計算書)

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
少数株主損益調整前当期純損失(△)	△215,150	△155,605
その他の包括利益	722	2,160
包括利益	△214,427	△153,445
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△214,751	△154,088
少数株主に係る包括利益	323	642

会社概要

2012年3月31日現在

会社名	株式会社トランスジェニック
設立	1998年4月
資本金	5,404百万円
従業員数	30名
事業所	
本社	熊本県熊本市南熊本三丁目14番3号
神戸研究所	兵庫県神戸市中央区港島南町七丁目1番地14
東京オフィス	東京都千代田区霞が関三丁目7番1号

役員

2012年3月31日現在

代表取締役社長	福永 健司	常勤監査役	増岡 通夫
取締役	山村 研一	監査役	遠藤 了
取締役	坂本 珠美	監査役	佐藤 貴夫
取締役	船橋 泰		
取締役	清藤 勉		

株主メモ

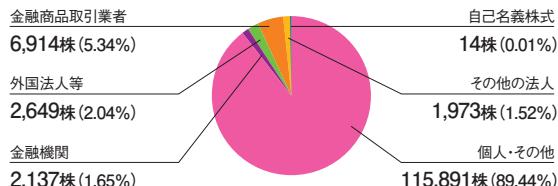
株式の状況

2012年3月31日現在

発行可能株式総数	436,301株
発行済株式の総数	129,578株
株主数	12,248名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
野村證券株式会社 野村ネット&コール	3,396	2.62
日本生命保険相互会社	1,350	1.04
チェース マンハッタン バンク ジーティーエス クライアント アカウト エスクロウ	1,200	0.92
上永智臣	995	0.76
大和証券株式会社	858	0.66
佐賀芳行	800	0.61
大下悟	774	0.59
マネックス証券株式会社	753	0.58
大阪証券金融株式会社	740	0.57
中村英幸	722	0.55



証券コード 2342

上場市場 東京証券取引所 マザーズ

上場年月日 2002年12月10日

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日

中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

特別口座の口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL:0120-232-711 (通話料無料)

公告方法 電子公告(当社ホームページに掲載)

※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告を
することができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

IRからのお知らせ

最新トピックスやホームページの更新情報などを電子メールでお知らせしています。

ご登録は当社ホームページにて受け付けています。

<http://www.transgenic.co.jp/>



当社のIR活動についてご意見・ご感想をお聴かせください。
下記アドレスへのご連絡をお待ちしております。

ir@transgenic.co.jp